

## 第Ⅱ部 解答・解説

### 第8章 商品売買の処理(その1)

**[問題8-1]**

	純売上高	純仕入高	期首商品 棚卸高	期末商品 棚卸高	売上原価	売上総利益
大阪商店	50,000	30,000	10,000	(8,000)	32,000	(18,000)
福岡商店	80,000	60,000	(32,000)	10,000	82,000	(△2,000)

**【解説】**

期首商品棚卸高 + 純仕入高 - 期末商品棚卸高 = 売上原価

大阪商店:     10,000   + 30,000 - ( 8,000 )   = 32,000

福岡商店:   ( 32,000 ) + 60,000 - 10,000   = 82,000

純売上高 - 売上原価 = 売上総利益

大阪商店: 50,000 - 32,000 = ( 18,000 )

福岡商店: 80,000 - 82,000 = ( △2,000 )

**[問題8-2]**

	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
(1)	仕 入	300,000	買 掛 金	300,000
(2)	売 掛 金	400,000	売 上	400,000
(3)	売 上	100,000	売 掛 金	100,000
(4)	売 掛 金	600,000	売 上	600,000
	発 送 費	10,000	現 金	10,000
(5)	仕 入	120,000	買 掛 金	105,000
			現 金	15,000
(6)	買 掛 金	100,000	現 金	100,000
(7)	売 上	25,000	売 掛 金	425,000
	現 金	400,000		

**【解説】**

(3)(7) 売上値引・戻りについては、売上時と反対の仕訳を行う。本問では、売上勘定と売掛金勘定をそれぞれ減少させる。

(5) 次の仕訳をまとめたものである。

(借方) 仕 入   120,000   (貸方) 買 掛 金   120,000

          買 掛 金   15,000                   現 金       15,000

**[問題8-3]**

	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
(1)	神戸商店	4,600	売 上	4,600
(2)	大阪商店	8,000	売 上	8,000
	発 送 費	400	現 金	400
(3)	売 上	800	大阪商店	800
(4)	仕 入	3,600	京都商店	3,600

(5)	仕 入	3,200	西宮商店 現 金	3,000 200
(6)	現 金	7,000	大阪商店	7,000
(7)	西宮商店	2,600	現 金	2,600
(8)	売 上	400	神戸商店	400
(9)	京都商店	3,000	現 金	3,000
(10)	現 金	4,000	神戸商店	4,000

【問題8-4】

	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
8/2	商 品	34,500	現 金	34,500
8	商 品	17,400	買 掛 金	17,400
12	売 掛 金	16,000	商 品 商品売買益	12,000 4,000
16	現 金	21,000	商 品 商品売買益	15,000 6,000

現 金		1
8/16 諸 口	21,000	8/2 商 品 34,500

売掛金		2
8/12 諸 口	16,000	

商 品		3
8/2 現 金	34,500	8/12 売掛金 12,000
8 買掛金	17,400	16 現 金 15,000

買掛金		4
	8/8 商 品	17,400

商品売買益		8
	8/12 売掛金	4,000
	16 現 金	6,000

【解説】

商品を仕入れた時には**商品**勘定の**借方**に仕入原価を記入し、商品を販売した時には、売上原価と販売益（売価と売上原価との差額）とを区別して、売上原価は**商品**勘定の**貸方**に記入し、販売益は**商品売買益**勘定の**貸方**に記入する。勘定科目の指定がない場合には、**商品売買益**勘定の代わりに、**商品販売益**勘定を用いてもよい。

なお、決算時には、商品勘定の残高は次期に繰り越し、商品売買益勘定の残高は**損益**勘定の**貸方**に振り替える。

【問題8-5】

	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
8/2	仕 入	34,500	現 金	34,500
8	仕 入	17,400	買 掛 金	17,400
12	売 掛 金	16,000	売 上	16,000
16	現 金	21,000	売 上	21,000

現金		1	
8/16 売上	21,000	8/2 仕入	34,500

売掛金		2	
8/12 売上	16,000		

買掛金		4	
		8/8 仕入	17,400

仕入		7	
8/2 現金	34,500		
8 買掛金	17,400		

売上		9	
		8/12 売掛金	16,000
		16 現金	21,000

【解説】

三分法では、売上勘定、仕入勘定、繰越商品勘定の三勘定を用いて処理を行う。商品を仕入れた時には仕入勘定の借方に仕入原価を記入し、商品を販売した時には売上勘定の貸方に売価を記入する。

なお、決算時には、実地棚卸によって期末棚卸高を求め、商品売買益を別途算定する。

【問題8-6】

	借方科目	金額	貸方科目	金額
9 / 4	仕入	30,000	現金	30,000
9	売掛金	24,000	売上	24,000
15	仕入	25,000	買掛金	25,000
20	現金	17,000	売上	17,000

繰越商品	
前期繰越	10,000

仕入	
9/4 現金	30,000
15 買掛金	25,000

売上	
	9/9 売掛金 24,000
	20 現金 17,000

【解説】

三分法では商品を売り上げた場合、売価で記入するので取引において与えられる原価データは仕訳に関係がない点に注意すること。

[問題8-7]

繰越商品			
前期繰越	10,000	仕 入	10,000
仕 入	15,000	次期繰越	15,000
	25,000		25,000

仕 入			
買掛金	15,000	繰越商品	15,000
現 金	21,000	損 益	31,000
繰越商品	10,000		
	46,000		46,000

売 上			
売 上	39,000	現 金	9,000
		売掛金	30,000
	39,000		39,000

損 益			
仕 入	31,000	売 上	39,000

借方科目	金 額	貸方科目	金 額
仕 入	10,000	繰越商品	10,000
繰越商品	15,000	仕 入	15,000
売 上	39,000	損 益	39,000
損 益	31,000	仕 入	31,000

[問題8-8]

借方科目	金 額	貸方科目	金 額
仕 入	120,000	繰越商品	120,000
繰越商品	130,000	仕 入	130,000
損 益	530,000	仕 入	530,000
売 上	740,000	損 益	740,000

繰越商品 3			
前期繰越	120,000	仕 入	120,000
仕 入	130,000	次期繰越	130,000
	250,000		250,000
前期繰越	130,000		

仕 入 7			
仕入高	540,000	繰越商品	130,000
繰越商品	120,000	損 益	530,000
	660,000		660,000

売 上 9			
損 益	740,000	売上高	740,000

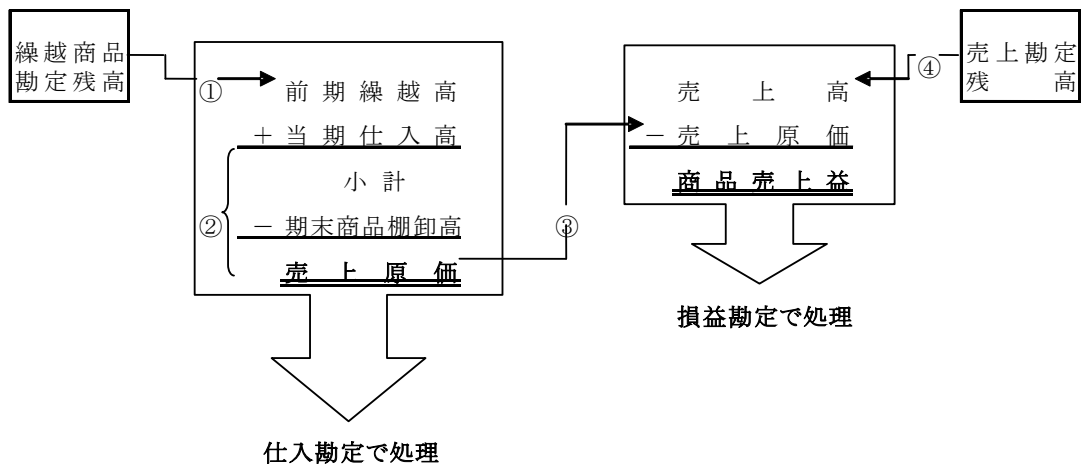
損 益 12			
仕 入	530,000	売 上	740,000

【解説】

- ① 繰越商品勘定の前期繰越高を仕入勘定の借方に振り替える。
- ② 期末商品棚卸高を繰越商品勘定の借方と仕入勘定の貸方に記入する。
- ③ 仕入勘定の借方残高(=売上原価)を損益勘定の借方に振り替える。

④ 売上勘定の貸方残高を損益勘定の貸方に振り替える。

なお、上記の①～④は、記載順に解答の仕訳に対応している。



[問題8-9]

借方科目	金額	貸方科目	金額
売上原価	120,000	繰越商品	120,000
売上原価	540,000	仕入	540,000
繰越商品	130,000	売上原価	130,000
損益	530,000	売上原価	530,000
売上	740,000	損益	740,000

繰越商品		3	
前期繰越	120,000	売上原価	120,000
売上原価	130,000	次期繰越	130,000
	250,000		250,000
前期繰越	130,000		

売上原価				6	
繰越商品	120,000	繰越商品	130,000		
仕入	540,000	損益	530,000		
	660,000		660,000		

仕入		7	
仕入高	540,000	売上原価	540,000

売上				9	
損益	740,000	売上高	740,000		

損益				12	
売上原価	530,000	売上	740,000		

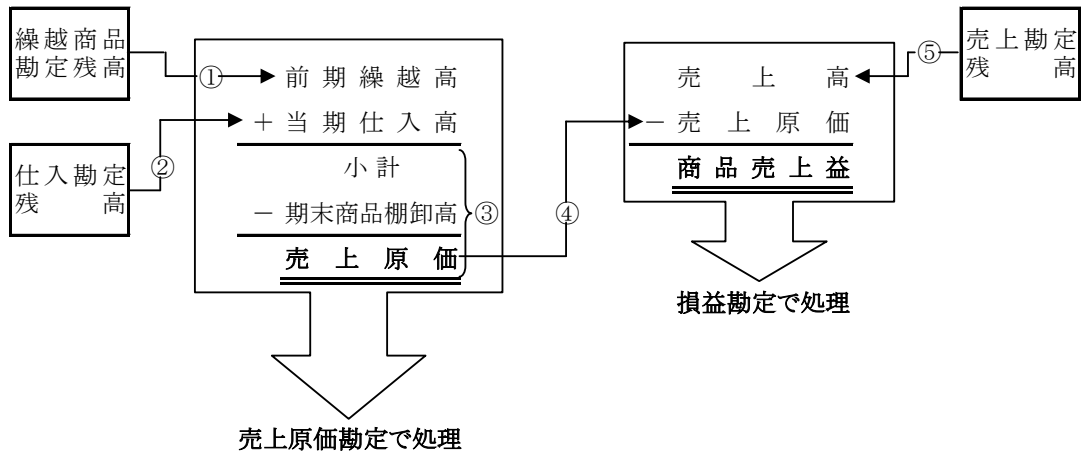
【解説】

- ① 繰越商品勘定の前期繰越高を売上原価勘定の借方に振り替える。
- ② 仕入勘定の借方残高(=当期仕入高)を売上原価勘定の借方に振り替える。
- ③ 期末商品棚卸高を繰越商品勘定の借方と売上原価勘定の貸方に記入する。

④ 売上原価勘定の借方残高(=売上原価)を損益勘定の借方に振り替える。

⑤ 売上勘定の貸方残高を損益勘定の貸方に振り替える。

なお、上記の①～⑤は、記載順に解答の仕訳に対応している。



[問題8-10]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
10 / 4	仕入	420,000	買掛金 現金	400,000 20,000
7	買掛金	20,000	仕入	20,000
14	売掛金 発送費	95,000 3,500	売上 現金	95,000 3,500
21	売掛金	82,000	売上 現金	80,000 2,000
28	売上	5,000	売掛金	5,000

[問題8-11]

<大阪商店>

	借方科目	金額	貸方科目	金額
5/2	売掛金	302,500	売上 現金	300,000 2,500
	または			
	売掛金 立替金	300,000 2,500	売上 現金	300,000 2,500
9	現金 発送費	100,000 1,500	売上 現金	100,000 1,500
	または			
	現金 発送費	98,500 1,500	売上	100,000

<東京商店>

	借方科目	金額	貸方科目	金額
5/2	仕入	302,500	買掛金	302,500
9	仕入	100,000	現金	100,000

【解説】

仕入に伴う諸費用(仕入諸掛)……仕入原価に含める。

売上に伴う諸費用(売上諸掛)……売り手負担→発送費等の費用の各勘定で処理。

買い手負担→売掛金または立替金勘定で処理。

[問題8-12]

売上原価の計算		売上総利益の計算	
期首商品棚卸高	¥ (360,000)	売上高	¥ (842,300)
当期仕入高	¥ (513,500)	売上原価	¥ (583,500)
小計	¥ (873,500)	売上総利益	¥ (258,800)
期末商品棚卸高	¥ (290,000)		
売上原価	¥ (583,500)		

【解説】

仕	入
総仕入高 540,000	仕入値引高 3,500
(純仕入高) 513,500	仕入戻し高 23,000
繰越商品(期首) 360,000	繰越商品(期末) 290,000
900,000	損益 583,500 } =売上原価
	900,000

ただし、売上原価は仕入勘定で算定するものとして説明している。

仕入値引・仕入戻し……仕入時と反対の処理(仕入勘定の貸方に記入)。

当期仕入高は、純額で計算する。

当期仕入高 = 総仕入高 - (仕入値引高 + 仕入戻し高)

¥ 513,500 = ¥ 540,000 - ( ¥ 3,500 + ¥ 23,000 )

売		上	
売上値引高	4,700	総売上高	890,000
売上戻り高	43,000		
損	益 842,300	(純売上高)	842,300
890,000		890,000	

売上値引・売上戻り……………売上時と反対の処理(売上勘定の借方に記入)。

売上高は、純額で計算する。

$$\begin{aligned} \text{売上高} &= \text{総売上高} - (\text{売上値引高} + \text{売上戻り高}) \\ \text{¥} 842,300 &= \text{¥} 890,000 - (\text{¥} 4,700 + \text{¥} 43,000) \end{aligned}$$

売上総利益とは、商品売買益のことである。

$$\begin{aligned} \text{売上総利益} &= \text{売上高} - \text{売上原価} \\ \text{¥} 258,800 &= \text{¥} 842,300 - \text{¥} 583,500 \end{aligned}$$

**【問題8-13】**

	商品棚卸高		総仕入高	総売上高	戻し高	戻り高	売上原価	売上総利益
	期首	期末						
1	6,000	(7,800)	48,000	(57,000)	300	600	45,900	10,500
2	(6,000)	4,800	36,000	44,000	400	(600)	36,800	6,600

**【解説】**

- ・戻し高＝仕入戻し, 戻り高＝売上戻り
- ・総仕入高－戻し高＝純仕入高
- ・総売上高－戻り高＝純売上高
- ・期首商品棚卸高＋純仕入高－期末商品棚卸高＝売上原価
- ・純売上高－売上原価＝売上総利益

$$\begin{aligned} 1: & 48,000 - 300 = 47,700 (\text{純仕入高}) \\ & 45,900 + 10,500 = 56,400 (\text{純売上高}) \\ & 56,400 + 600 = 57,000 (\text{総売上高}) \\ & 6,000 + 47,700 - (7,800) = 45,900 (\text{売上原価}) \\ & 56,400 - 45,900 = 10,500 (\text{売上総利益}) \\ 2: & 36,000 - 400 = 35,600 (\text{純仕入高}) \\ & 44,000 - (600) = 43,400 (\text{純売上高}) \\ & (6,000) + 35,600 - 4,800 = 36,800 (\text{売上原価}) \\ & 43,400 - 36,800 = 6,600 (\text{売上総利益}) \end{aligned}$$



## 第9章 商品売買の処理(その2)

[問題9-1]

### 仕 入 帳

×	年	摘 要	内 訳	金 額
5	1	神戸商店 掛		
		A 商品 100 個 @ ¥150	15,000	
		引取運賃現金払い	300	15,300
	16	京都商店 諸口		
		A 商品 50 個 @ ¥180	9,000	
		B 商品 100 " " " 120	12,000	21,000
	<b>20</b>	<b>京都商店 掛返品</b>		
		<b>A 商品 10 個 @ ¥180</b>		<b>1,800</b>
	31	総 仕 入 高		36,300
		<b>仕入値引・戻し高</b>		<b>1,800</b>
		純 仕 入 高		34,500

※ 太文字は赤字記入箇所を示している。

#### 【解説】

仕入帳を作成する場合において注意する点は次のとおりである。

- (1) 日付欄では、実際に月が変わるか、仕入帳のページが変わらない限り、月は最初に書くだけでよい。また、同一日付で二組以上の仕訳がある場合は、二組目からの日の記入は繰返し記号(〃)を使う。
- (2) 摘要欄は、取引ごとに区切り線を引く。なお、その仕訳が当該ページの最後に記入される仕訳である場合、区切り線は引かない。
- (3) 締切りを行う際、日付欄にその月の最終日、摘要欄に総仕入高、仕入値引・戻し高を記入し、一本線を入れる。なお、仕入値引・戻し高は赤字で記入する。
- (4) 総仕入高は当月の仕入金額の合計である(本問では5月1日の仕入金額¥15,300と5月16日の仕入金額¥21,000の合計)。総仕入高には仕入値引・戻し高は含まれない。
- (5) 総仕入高と純仕入高の関係は以下のとおりである。  

$$\text{純仕入高} = \text{総仕入高} - \text{仕入値引} \cdot \text{戻し高}$$
- (6) 2種類以上の商品を仕入れた時には、それぞれの金額を内訳欄に記入する。
- (7) 仕入諸掛は仕入代金とは区別して記入し、取引ごとに仕入代金と合計する。なお、内訳欄の金額を合計する場合は内訳欄に赤線を引き、金額欄に合計金額を記入する。また、摘要欄の赤線は取引ごとの区切りを示す赤線なので、内訳欄の赤線とは一体ではないことに注意する。
- (8) 5月1日の引取運賃は仕入諸掛なので、仕入原価に含める。
- (9) 5月16日の「諸口」は「現金および掛」でもよい。

[問題9-2]

(1) 仕訳

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
6/ 1	仕 入	382,000	買 掛 金 現 金	380,000 2,000
8	買 掛 金	20,000	仕 入	20,000
17	買 掛 金	10,000	仕 入	10,000
25	仕 入	312,000	現 金 買 掛 金	250,000 62,000

(2) 勘定記入

仕 入			
6/ 1 諸 口	382,000	6/ 8 買 掛 金	20,000
25 諸 口	312,000	17 買 掛 金	10,000

(3) 仕入帳記入

仕 入 帳			
× 年	摘 要	内 訳	金 額
6	1 福岡商店 掛		
	トレーナー 150枚 @ ¥2,000	300,000	
	Tシャツ 80枚 @ ¥1,000	80,000	
	引取運賃現金払い	2,000	382,000
	8 福岡商店 掛返品		
	トレーナー 10枚 @ ¥2,000		20,000
	17 福岡商店 掛値引		
	Tシャツ 50枚 @ ¥200		10,000
	25 鹿児島商店 諸口		
	トレーナー 80枚 @ ¥2,100	168,000	
	Tシャツ 120枚 @ ¥1,200	144,000	312,000
	30 総 仕 入 高		694,000
	仕入値引・戻し高		30,000
	純 仕 入 高		664,000

※ 太文字は赤字記入箇所を示している。

【解説】

それぞれの取引日における仕訳の注意点は、次のとおりである。

- (1) 6月1日の仕訳について、引取運賃は仕入諸掛なので、仕入の金額に含める。
- (2) 6月8日の仕訳について、返品した商品は6月1日に仕入れたものであるから、仕入と買掛金をそれぞれ減少させる。したがって仕訳は掛仕入と反対の仕訳となる。

- (3) 6月17日の仕訳について、値引を受けた商品は6月1日に仕入れたものであるから、値引を受けた金額だけ仕入と買掛金をそれぞれ減少させる。したがって仕訳は、掛仕入と反対の仕訳となる。
- (4) 6月25日の仕訳について、仕入¥312,000のうち、現金での支払いが¥250,000で、残額が買掛金による支払いのため、¥62,000を買掛金の貸方に記入する。  
仕入帳を作成する場合において注意する点は問題1の解説と同様である。
- (5) 6月1日の金額は内訳欄に3行記入されている。内訳欄に赤線を引き、その合計¥382,000を金額欄に記入する。また、摘要欄には、取引ごとの区切り線を引く。
- (6) 6月25日の取引は、最後に記入される仕訳なので区切り線は引かない。
- (7) 6月25日の「諸口」は「現金および掛」でもよい。

**[問題9-3]**

売 上 帳

×年		摘 要	内 訳	金 額
6	10	大阪商店 掛		
		B商品 10個 @ ¥150	1,500	
		C商品 100〃〃〃190	19,000	20,500
	11	大阪商店 掛値引		
		C商品 100個 @ ¥6		600
	30	総 売 上 高		20,500
		売上値引・戻り高		600
		純 売 上 高		19,900

※ 太文字は赤字記入箇所を示している。

**【解説】**

売上帳を作成する場合において注意する点は次のとおりである。

- (1) 日付欄では、実際に月が変わるか、売上帳のページが変わらない限り、月は最初に書くだけでよい。また、同一日付で二組以上の仕訳がある場合は、二組目からの日の記入は繰返し記号(〃)を使う。
- (2) 摘要欄は、取引ごとに区切り線を引く。なお、その仕訳が当該ページの最後に記入される仕訳である場合、区切り線は引かない。
- (3) 締切りを行う際、日付欄にその月の最終日、摘要欄に総売上高、売上値引・戻り高を記入し、一本線をいれる。なお、売上値引・戻り高は赤字で記入する。
- (4) 総売上高は当月の売上金額の合計である(本問で6月10日の売上金額¥20,500)。総売上高には売上値引・戻り高は含まれない。
- (5) 総売上高と純売上高の関係は以下のとおりである。  
純売上高 = 総売上高 - 売上値引・戻り高
- (6) 2種類以上の商品を売上げた時には、それぞれの代金を内訳欄に記入する。
- (7) 売上帳には売上(収益)の発生と消滅のみを記入するので、発送費は記入しない。なお、仕訳を行

う際は、当方(売主)負担の場合は発送費として処理し、先方(買主)負担の場合は買主に対する売掛金に含めて処理する。これを立替金として処理してもよい。

[問題9-4]

(1) 仕訳

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
10/ 1	売掛金	280,000	売上	280,000
	発送費	3,000	現金	3,000
12	売上	96,000	売掛金	96,000
15	売上	4,000	売掛金	4,000
24	現金	300,000	売上	445,000
	売掛金	149,000	現金	4,000

(2) 勘定記入

売		上	
10/12 売掛金	96,000	10/ 1 売掛金	280,000
15 売掛金	4,000	24 諸口	445,000

(3) 売上帳記入

×年		摘要		内訳	金額
10	1	神戸商店 掛			
		A商品	20個 @ ¥8,000	160,000	
		B商品	20 " " " 6,000	120,000	280,000
	12	神戸商店 掛返品			
		A商品	12個 @ ¥8,000		96,000
	15	神戸商店 掛値引			
		B商品	10個 @ ¥400		4,000
24		東京商店 諸口			
		A商品	25個 @ ¥9,000	225,000	
		B商品	40個 @ ¥5,500	220,000	445,000
	31	総売上高			725,000
		売上値引・戻り高			100,000
		純売上高			625,000

※ 太文字は赤字記入箇所を示している。

【解説】

それぞれの取引日における仕訳の注意点は、次のとおりである。

- (1) 10月1日の仕訳について、発送費は当方負担であるため、発送費(費用)として処理する。
- (2) 10月12日の仕訳について、返品された商品は10月1日に売り上げたものであるから、売上と売掛金をそれぞれ減少させる。したがって仕訳は掛売上と反対の仕訳となる。
- (3) 10月15日の仕訳について、値引をした商品は10月1日に売り上げたものであるから、値引をした金額だけ売上と売掛金をそれぞれ減少させる。したがって仕訳は、掛売上と反対の仕訳となる。
- (4) 10月24日の仕訳について発送費が先方負担であるため、現金で支払った¥4,000を東京商店に対する売掛金に含める。なお、これを立替金として処理してもよい。その場合、次のような仕訳となる。

	(借方)	現 金	300,000		(貸方)	売 上	445,000
		売 掛 金	145,000			現 金	4,000
		立 替 金	4,000				

売上帳を作成する場合において注意する点は問題 9-3 の解説と同様である。

- (1) 10月24日の「諸口」は「現金および掛」でもよい。

【問題9-5】

商 品 有 高 帳

(先入先出法)

品名:ブラウス

× 年	摘要	受 入 高			引 渡 高			残 高				
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額		
6	1	前月繰越	20	600	12,000				20	600	12,000	
	5	仕 入	40	600	24,000				}	60	600	36,000
	12	仕 入	60	620	37,200					60	620	37,200
	18	売 上				}	60	600	36,000			
							20	620	12,400	}	40	620
	26	仕 入	20	580	11,600				20		580	11,600
	27	売 上				}	40	620	24,800			
							5	580	2,900	15	580	8,700
	30	次月繰越					15	580	8,700			
			140		84,800	140		84,800				
7	1	前月繰越	15	580	8,700				15	580	8,700	

売 上 高	売 上 原 価	売上総利益
¥115,100	¥76,100	¥39,000

【解説】

商品有高帳の記入において注意すべき点は次のとおりである。

- (1) 単価、金額はすべて原価で記入する。とくに払出欄の単価として売価を記入しないように気を付けること。

売上帳の単価および金額はすべて売価である。

- (2) 摘要欄には取引の内容を簡潔に記入する。
- (3) 帳簿を締切際には、日付欄にその月の最終日、摘要欄に次月繰越、払出欄に残高欄の締切り直前の数量、単価、金額をそれぞれ赤字で記入し、受入欄と払出欄に一本線を引く。次いで、受入欄と払出欄の数量と金額が一致することを確認、摘要欄を除く二本線を引いて締切る。
- (4) 開始記入にあたっては、日付欄にその月の初日、摘要欄に前月繰越、受入欄と残高欄に前月繰越の数量・単価・金額を記入する。
- (5) 6月12日の引取運賃は仕入原価に加える。(60枚×@¥615+¥300=¥37,200)
- (6) 6月29日の売上値引高¥1,500は、売上高が減少するだけで、売上原価は変化しないので商品有高帳に記入しない。

先入先出法による記入において注意すべき点は次のとおりである。

- ① 仕入単価が異なる商品が残高として残っている場合、および仕入単価が異なる商品を同時に払い出した場合には、それら単価の異なる商品を上下に並べて記入し、カッコでくくる。
- ② 仕入単価の異なる商品を同時に払い出した場合には、先に受け入れた商品から順に払い出したと仮定して記帳する。

売上高・売上原価・売上総利益の計算

- i 売上高: 6月18日 80枚×¥940=¥75,200  
           27日 45枚×¥920=¥41,400  
           29日 値引 ¥1,500                      ¥75,200+¥41,400-¥1,500=¥115,100
- ii 売上原価: 商品売上時の払出欄の金額を合計することによって求められる(本問では¥36,000, ¥12,400, ¥24,800, ¥2,900の計¥76,100)。
- iii 売上総利益: ¥115,100-¥76,100=¥39,000

[問題9-6]

商品有高帳

(移動平均法)

品名:ブラウス

×年	摘要	受入高			引渡高			残高			
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額	
6	1	前月繰越	20	600	12,000				20	600	12,000
	5	仕入	40	600	24,000				60	600	36,000
	12	仕入	60	620	37,200				120	610	73,200
	18	売上				80	610	48,800	40	610	24,400
	26	仕入	20	580	11,600				60	600	36,000
	27	売上				45	600	27,000	15	600	9,000
	30	次月繰越				15	600	9,000			
			140		84,800	140		84,800			
7	1	前月繰越	15	600	9,000				15	600	9,000

売 上 高	売 上 原 価	売上総利益
¥115,100	¥75,800	¥39,300

【解説】

移動平均法では、単価の異なる商品を仕入れるたびに、仕入前残高金額と受入金額の合計額を仕入前残高数量と受入数量の合計数量で除して平均単価を求める。つまり、残高として残っている商品の単価について常に平均を求めるという考え方である。次に単価の異なる商品を仕入れるまでは、この平均単価が払出単価となる。

- (1) 6月5日の仕入単価¥600は、直前の残高の単価と同じなので単純に合算するだけでよい。
- (2) 6月12日の仕入原価¥37,200と直前の残高金額¥36,000を合計(¥73,200)し、これを仕入数量60枚と直前の残高数量60枚の合計数量(120枚)で割って平均単価¥610を求める。
- (3) 6月26日の仕入原価¥11,600と直前の残高金額¥24,400を合計(¥36,000)し、これを仕入数量20枚と直前の残高数量40枚の合計数量(60枚)で割って平均単価¥600を求める。

\*売上高・売上原価・売上総利益の計算

- i 売上高：問題9-5と同じ(¥75,200 + ¥41,400 - ¥1,500 = ¥115,100)
- ii 売上原価：商品売上時の払出欄の金額合計(¥48,800 + ¥27,000 = ¥75,800)。
- iii 売上総利益：¥115,100 - ¥75,800 = ¥39,300

[問題9-7]

- (1) 商品有高帳の記入

商 品 有 高 帳

(先入先出法)

品名：ネクタイ

×年	摘要	受 入 高			引 渡 高			残 高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
6	1 前月繰越	20	7,000	140,000				20	7,000	140,000
	12 仕入	20	6,000	120,000				20	6,000	120,000
	17 売上				20	7,000	140,000			
					10	6,000	60,000	10	6,000	60,000
	20 仕入	50	5,600	280,000				50	5,600	280,000
	26 売上				10	6,000	60,000			
					30	5,600	168,000	20	5,600	112,000
	30 次月繰越				20	5,600	112,000			
		90		540,000	90		540,000			
7	1 前月繰越	20	5,600	112,000				20	5,600	112,000

## (2) 売上原価の計算

月初商品棚卸高	¥( 140,000 )
当月商品仕入高	¥( 400,000 )
合計	¥( 540,000 )
月末商品棚卸高	¥( 112,000 )
売上原価	¥( 428,000 )

## (3) 売上総利益の計算

売上高	¥( 470,000 )
売上原価	¥( 428,000 )
売上総利益	¥( 42,000 )

## 【解説】

売上高・売上原価・売上総利益の計算

(1) 売上高：売上帳のネクタイの金額を集計(¥210,000+¥260,000=¥470,000)

(2) 月初商品棚卸高・・・前月繰越の金額(本間では¥140,000)。

当月商品仕入高・・・商品仕入時の受入欄の金額合計(本間では¥120,000と¥280,000の計¥400,000)。

月末商品棚卸高・・・次月繰越または最終取引終了後の残高の金額(本間では¥112,000)。

売上原価・・・¥140,000+¥400,000-¥112,000=¥428,000

または、商品売上時の払出欄の金額合計(¥140,000+¥60,000+¥60,000+¥168,000=¥428,000)。

(3) 売上総利益：¥470,000-¥428,000=¥42,000

## [問題9-8]

(1) 商品有高帳の記入

## 商品有高帳

(移動平均法)

品名：ネクタイ

×年	摘要	受入高			引渡高			残高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
6	1 前月繰越	20	7,000	140,000				20	7,000	140,000
	12 仕入	20	6,000	120,000				40	6,500	260,000
	17 売上				30	6,500	195,000	10	6,500	65,000
	20 仕入	50	5,600	280,000				60	5,750	345,000
	26 売上				40	5,750	230,000	20	5,750	115,000

## (2) 売上原価の計算

月初商品棚卸高	¥( 140,000 )
当月商品仕入高	¥( 400,000 )
合計	¥( 540,000 )
月末商品棚卸高	¥( 115,000 )
売上原価	¥( 425,000 )

## (3) 売上総利益の計算

売上高	¥( 470,000 )
売上原価	¥( 425,000 )
売上総利益	¥( 45,000 )



【解説】

売上原価の計算

月末商品棚卸高・・・次月繰越または最終取引終了後の残高の金額(本問では¥115,000)。

売上原価・・・¥140,000 + ¥400,000 - ¥115,000 = ¥425,000

または、商品売上時の払出欄の金額合計(¥195,000 + ¥230,000 = ¥425,000)。

[問題9-9]

売掛金元帳

京都商店

×年		摘要	借方	貸方	借／貸	残高
7	1	前月繰越	350,000		借	350,000
	9	売上	80,000		〃	430,000
	15	返品		10,000	〃	420,000
	24	売上	50,000		〃	470,000
	31	入金		280,000	〃	190,000
	〃	次月繰越		190,000		
			480,000	480,000		
8	1	前月繰越	190,000		借	190,000

【解説】

売掛金元帳の記入において注意すべき点は次のとおりである。

- (1) 売掛金元帳には得意先ごとの人名勘定が設けられる。本問では京都商店の勘定が示されているので、京都商店に対する売掛金の増減のみを記入する。
- (2) 売掛金元帳を締め切るときは、次月繰越の金額を貸方欄に赤字で記入し、借方・貸方の合計金額が一致することを確認して締め切る。
- (3) 翌月1日の日付で、前月から繰り越された金額を借方欄と残高欄に記入する。
- (4) 売掛金元帳では常に借方に残高が生じるので、「借または貸」欄には「借」と記入する。

[問題9-10]

買掛金元帳

山口商店

×年		摘要	借方	貸方	借/貸	残高
9	1	前月繰越		250,000	貸	250,000
	7	仕入		180,000	〃	430,000
	8	返品	90,000		〃	340,000
	18	仕入		160,000	〃	500,000
	29	支払	350,000		〃	150,000
	30	次月繰越	150,000			
			590,000	590,000		
10	1	前月繰越		150,000	貸	150,000

【解説】

買掛金元帳への記入上の注意点は、問題9-9の解説に準じる。

[問題9-11]

総勘定元帳

売掛金

9/ 1 前月繰越	170,000	9/10 現金	50,000
5 売上	8,000	〃 現金	30,000
〃 売上	8,000	20 売上	1,000
10 売上	5,000	30 次月繰越	144,000
〃 売上	6,000		
20 売上	7,000		
〃 売上	5,000		
30 売上	6,000		
〃 売上	10,000		
	<u>225,000</u>		<u>225,000</u>

売掛金元帳

名古屋商店

9/ 1 前月繰越	100,000	9/10 回収	50,000
5 売上	8,000	30 次月繰越	76,000
10 売上	5,000		
20 売上	7,000		
30 売上	6,000		
	<u>126,000</u>		<u>126,000</u>

買掛金

9/ 5 現金	40,000	9/ 1 前月繰越	110,000
〃 現金	25,000	5 仕入	15,000
20 現金	10,000	〃 仕入	5,000
30 次月繰越	84,000	10 仕入	10,000
		〃 仕入	4,000
		20 仕入	10,000
		〃 仕入	5,000
	<u>159,000</u>		<u>159,000</u>

買掛金元帳

大阪商店

9/ 5 支払	40,000	9/ 1 前月繰越	60,000
30 次月繰越	45,000	5 仕入	15,000
		10 仕入	10,000
	<u>85,000</u>		<u>85,000</u>

横浜商店				京都商店			
9/ 1 前月繰越	50,000	9/10 回収	30,000	9/ 5 支払	25,000	9/ 1 前月繰越	40,000
20 売上	5,000	30 次月繰越	35,000	30 次月繰越	29,000	10 仕入	4,000
30 売上	10,000					20 仕入	10,000
	65,000		65,000		54,000		54,000

札幌商店				神戸商店			
9/ 1 前月繰越	20,000	9/20 返品	1,000	9/20 支払	10,000	9/ 1 前月繰越	10,000
5 売上	8,000	30 次月繰越	33,000	30 次月繰越	10,000	5 仕入	5,000
10 売上	6,000					20 仕入	5,000
	34,000		34,000		20,000		20,000

【解説】

解答の売掛金勘定と買掛金勘定の記入は、人名勘定別に示したが、次のように取引別に記入する方法もある。

総勘定元帳

売掛金				買掛金			
9/ 1 前月繰越	170,000	9/10 現金	50,000	9/ 5 現金	40,000	9/ 1 前月繰越	110,000
5 売上	16,000	〃 現金	30,000	〃 現金	25,000	5 仕入	20,000
10 売上	11,000	20 売上	1,000	20 現金	10,000	10 仕入	14,000
20 売上	12,000	30 次月繰越	144,000	30 次月繰越	84,000	20 仕入	15,000
30 売上	16,000				159,000		159,000
	225,000		225,000				

記入にあたっては、売掛金勘定と売掛金元帳の人名勘定(名古屋商店、横浜商店、札幌商店)との関係、買掛金勘定と買掛金元帳の人名勘定(大阪商店、京都商店、神戸商店)との関係をそれぞれ確認すること。たとえば、9月5日の取引では名古屋商店と札幌商店に対する売掛金が増加しているので、売掛金勘定の借方と名古屋商店と札幌商店の借方にそれぞれ記入する。

[問題9-12]

売掛金明細表			買掛金明細表		
	9月1日	9月30日		9月1日	9月30日
名古屋商店	¥ 100,000	¥ 76,000	大阪商店	¥ 60,000	¥ 45,000
横浜商店	50,000	35,000	京都商店	40,000	29,000
札幌商店	20,000	33,000	神戸商店	10,000	10,000
	¥ 170,000	¥ 144,000		¥ 110,000	¥ 84,000

【解説】

売掛金明細表および買掛金明細表には、期首と期末(本問では月初と月末)における取引先別の売掛金残高および買掛金残高が示される。したがって本問では、問題 11 の売掛金元帳と買掛金元帳から、取引先ごとの売掛金または買掛金の月末残高を求めればよい。

[問題9-13]

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
4/ 3	仕 入	40,000	買 掛 金	40,000
6	売 掛 金	50,000	売 上	50,000
8	仕 入	72,000	買 掛 金	70,000
			現 金	2,000
11	売 掛 金	60,000	売 上	60,000
	発 送 費	1,500	現 金	1,500
12	売 上	5,000	売 掛 金	5,000
18	買 掛 金	20,000	仕 入	20,000
22	現 金	40,000	売 掛 金	40,000
25	買 掛 金	50,000	現 金	50,000

総勘定元帳

売 掛 金

4/ 1 前期繰越	50,000	4/12 売 上	5,000
6 売 上	50,000	22 現 金	40,000
11 売 上	60,000		

買 掛 金

4/18 仕 入	20,000	4/1 前期繰越	30,000
25 現 金	50,000	3 仕 入	40,000
		8 仕 入	70,000

売掛金元帳

愛媛商店

4/1 前月繰越	20,000
6 売 上	50,000

徳島商店

4/1 前月繰越	30,000	4/12 値引	5,000
11 売 上	60,000	22 回収	40,000

買掛金元帳

高知商店

4/1 前月繰越	20,000
3 仕 入	40,000

香川商店

4/18 戻し	20,000	4/1 前月繰越	10,000
25 支払	50,000	8 仕 入	70,000

【解説】

それぞれの取引日における仕訳の注意点は、次のとおりである。

- (1) 4月8日の仕訳について、引取運賃は仕入原価に加えて処理する。
- (2) 4月11日の仕訳について、当社負担の発送費は発送費勘定(費用)で処理する。

[問題9-14]

売掛金明細表				買掛金明細表	
	4月1日	4月30日		4月1日	4月30日
愛媛商店	¥ 20,000	¥ 70,000	高知商店	¥ 20,000	¥ 60,000
徳島商店	30,000	45,000	香川商店	10,000	10,000
	¥ 50,000	¥ 115,000		¥ 30,000	¥ 70,000

【解説】

問題 9-13 の売掛金元帳と買掛金元帳から、取引先ごとの売掛金または買掛金の月末残高を求めればよい。

## 第 10 章 現金・預金の処理

[問題10-1]

(1) (7) (10)

[問題10-2]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	現金過不足	30,000	現金	30,000
(2)	支払手数料	20,000	現金過不足	20,000
(3)	雑損	10,000	現金過不足	10,000

### 総勘定元帳

#### 現金

	現金過不足 30,000
--	--------------

#### 現金過不足

現金 30,000	支払手数料 20,000
	雑損 10,000

#### 雑損

現金過不足 10,000	
--------------	--

【解説】

- (1) 現金の実際有高と帳簿残高が一致しない場合には、帳簿残高を増減させて実際有高に一致させる。本問では、実際有高<帳簿残高であるので、現金の帳簿残高を¥ 30,000 減少させ、これを現金過不足として処理する。
- (2) (1)における現金過不足の内訳が一部判明したため、本来の正しい勘定である支払手数料勘定に振り替える。
- (3) 現金過不足勘定は、期中に生じた現金の実際有高と帳簿残高との不一致額を一時的に調整するために用いられる勘定であり、決算日までに原因が判明しなかった場合には、雑損勘定または雑益勘定に振り替える。なお、「雑損」は「雑損失」でもよい。

[問題10-3]

	貸方科目	金額	借方科目	金額
7/2	仕 入	70,000	当 座 預 金	60,000
			当 座 借 越	10,000
3	広 告 料	30,000	当 座 借 越	30,000
4	当 座 借 越	40,000	売 掛 金	80,000
	当 座 預 金	40,000		
5	買 掛 金	60,000	当 座 預 金	40,000
			当 座 借 越	20,000

当座預金			当座借越		
7/1	前月繰越	60,000	7/2	仕 入	60,000
4	売掛金	40,000	7/4	売掛金	40,000
			5	買掛金	40,000
			7/2	仕 入	10,000
			3	広告料	30,000
			5	買掛金	20,000

[問題10-4]

当 座 預 金 出 納 帳

○年	摘 要	収 入	支 出	借 貸	残 高
7	1 前 月 繰 越	60,000		借	60,000
	2 神戸商店から仕入		70,000	貸	10,000
	3 広告料支払		30,000	〃	40,000
	4 大阪商店から売掛金受取	80,000		借	40,000
	5 京都商店に買掛金支払		60,000	貸	20,000
	31 次 月 繰 越	20,000			
		160,000	160,000		

[問題10-5]

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
5/1	小口現金	200,000	当座預金	200,000
31	旅費交通費	56,000	小口現金	120,000
	消耗品費	12,000		
	水道光熱費	15,000		
	雑 費	37,000		
	小口現金	120,000	当座預金	120,000

(別解)5月31日の仕訳は次のように行ってもよい。

5/31	(借方)	旅費交通費	56,000	(貸方)	当座預金	120,000
		消耗品費	12,000			
		水道光熱費	15,000			
		雑費	37,000			

**【解説】**

- (1) 5月1日の仕訳について、用度係への前渡額は、小口現金勘定で処理する。
- (2) 5月31日の仕訳について、小口現金の支払明細(費用)は用度係からの報告時に仕訳を行う。また、定額資金前渡法では、用度係が支払った額と同額を補給する。
- (3) 「旅費交通費」は、「旅費」または「交通費」でもよい。

**[問題10-6]**

小口現金出納帳

受入	×年		摘要	支払	内訳			
					交通費	通信費	消耗品費	雑費
32,000	6	5	前週繰越					
48,000		〃	本日補給					
		〃	お茶	6,000			6,000	
		6	帳簿・ノート	12,000			12,000	
		7	バス回数券	18,000	18,000			
		8	郵便切手	8,200		8,200		
		9	ボールペン・鉛筆	5,000			5,000	
		10	はがき代	4,500		4,500		
			合計	53,700	18,000	12,700	17,000	
		〃	次週繰越	26,300				
80,000				80,000				
26,300	6	12	前週繰越					
53,700		〃	本日補給					

**【解説】**

小口現金出納帳の記帳方法は次のとおりである。

- (1) 前週からの繰越金額は受入欄に記入する。
- (2) 小口現金を支払ったときには、支払欄と内訳欄に支払金額を記入する。
- (3) この問題に関しては1週間で締切られているため、週の終わりに支払欄と内訳欄の金額をそれぞれ合計して記入するとともに、内訳欄を締め切る。



- (4) 前週繰越額と週初めに補給された金額の合計から、今週の支払合計額を差し引いた金額を次週繰越額として赤字で記入する。
- (5) 前週繰越額と週初めの補給額の合計を受入欄に、今週の支払合計額と次期繰越の合計を支払欄にそれぞれ記入し、受入欄と支払欄を締め切る。
- (6) 補給額は受入欄に記入する。定額資金前渡法では、補給額は前週の支払合計額と同額である。

## 第11章 手形

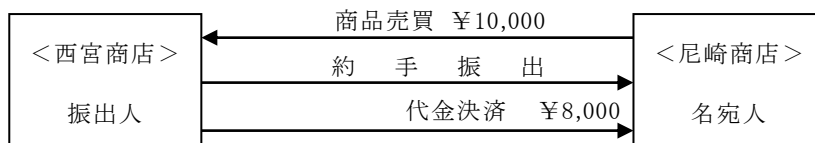
**[問題11-1]**

	商店	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	西宮	仕入	10,000	買掛金	8,000
				現金	2,000
	尼崎	売掛金	8,000	売上	10,000
		現金	2,000		
(2)	西宮	買掛金	8,000	支払手形	8,000
	尼崎	受取手形	8,000	売掛金	8,000
(3)	西宮	支払手形	8,000	当座預金	8,000
	尼崎	当座預金	8,000	受取手形	8,000

**【解説】**

約束手形を振り出したときは、支払手形勘定の貸方に記入し、受け取ったときは受取手形勘定の借方に記入する。また手形代金を支払ったときは、支払手形勘定の借方に記入し、受け取ったときは受取手形勘定の貸方に記入する。

本問での約束手形の振出人および名宛人の関係を図示すると以下のとおりとなる。



**[問題11-2]**

(1) 約束手形

**【解答】**

9月5日 大阪商店は、西宮商店へ商品¥1,000,000を売り上げ、代金として同店振り出しの約束手形¥1,000,000(#43, 振出日9月5日, 支払期日10月5日, 支払場所; 西北銀行甲東園支店)を受け取った。

西宮商店(9月5日)

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	1,000,000	支払手形	1,000,000

大阪商店(9月5日)

借方科目	金額	貸方科目	金額
受取手形	1,000,000	売上	1,000,000

**【解説】**

約束手形を振り出した方は、支払手形勘定の貸方に、受け取った方は受取手形勘定の借方に記入する。

(2) 為替手形

【解答】

9月1日 梅田商店は、芦屋商店から¥2,000,000を仕入れ、代金は売掛金のある得意先神戸商店あての為替手形(#32, 振出日9月1日, 支払期日10月30日, 支払場所;神戸銀行元町支店) ¥2,000,000を振り出し、神戸商店の引受けを得て、芦屋商店に渡した。

梅田商店(9月1日)

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	2,000,000	売掛金	2,000,000

神戸商店(9月1日)

借方科目	金額	貸方科目	金額
買掛金	2,000,000	支払手形	2,000,000

芦屋商店(9月1日)

借方科目	金額	貸方科目	金額
受取手形	2,000,000	売上	2,000,000

【解説】

- 為替手形の振出人(梅田商店)は、その金額だけ名宛人(神戸商店)に対する債権(売掛金など)が減少する。
- 為替手形の名宛人(神戸商店)は、引受けによって、その金額だけ振出人(梅田商店)に対する債務(買掛金など)が減少するとともに、手形債務が生じ支払手形勘定の貸方に記入する。
- 為替手形の受取人(芦屋商店)は、手形債権が生じ、受取手形勘定の借方に記入する。

[問題11-3]

	商店	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	宝塚	仕入	302,000	買掛金	300,000
				当座預金	2,000
	芦屋	売掛金	300,000	売上	300,000
(2)	宝塚	売掛金	200,000	売上	200,000
	神戸	仕入	200,000	買掛金	200,000
(3)	宝塚	買掛金	300,000	売掛金	150,000
				現金	150,000
	芦屋	受取手形	150,000	売掛金	300,000
		現金	150,000		
	神戸	買掛金	150,000	支払手形	150,000
(4)	芦屋	現金	150,000	受取手形	150,000
	神戸	支払手形	150,000	当座預金	150,000

【解説】

<宝塚商店>

(3) 為替手形を振出し、神戸商店が引き受けたことにより、神戸商店に対する売掛金¥150,000が芦屋商店に対する買掛金¥150,000と相殺される。為替手形の振出人の仕訳には手形勘定はあられない。

<芦屋商店>

(3) 宝塚商店に対する売掛代金について、為替手形を受け取っている。為替手形を受け取った場合も、約束手形を受け取った場合と同様に受取手形勘定で処理する。

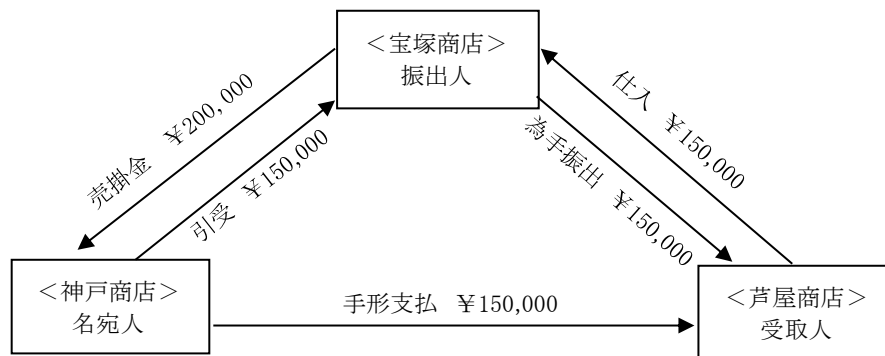
(4) 手形代金¥150,000の支払いを受け、受取手形勘定の貸方に¥150,000を記入する。

<神戸商店>

(3) 為替手形の引受により、宝塚商店に対する買掛金¥150,000が減少する一方で、芦屋商店に対する手形債務¥150,000を負う。

(4) 手形代金¥150,000を支払ったので、支払手形勘定の借方に¥150,000を記入する。

宝塚商店を中心として、為替手形にかかわる3商店の関係を示せば、次のようになる。



[問題11-4]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	仕入	70,000	前払金 支払手形	1,000 69,000
(2)	受取手形 現金	300,000 200,000	売上	500,000
(3)	仕入	56,000	支払手形 当座預金	40,000 16,000
(4)	買掛金	40,000	売掛金	40,000
(5)	当座預金	25,000	受取手形	25,000
(6)	仕入	500,000	支払手形	500,000

【解説】

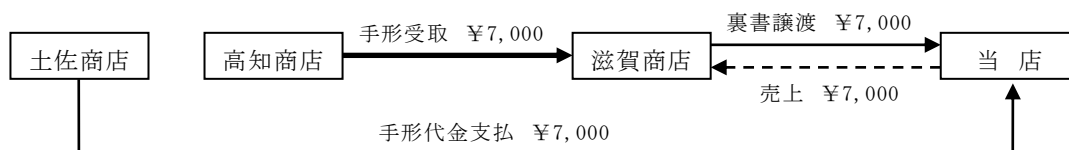
- (1) 約束手形を振り出した場合には、支払手形勘定の貸方に記入する。
- (2) 約束手形を受けた場合には、受取手形勘定の借方に記入する。
- (3) 為替手形を引き受けた場合には、手形債務を負うことになるので、支払手形勘定の貸方に記入する。
- (4) 為替手形の振出により、宮城商店に対する売掛金 ¥40,000 と山形商店に対する買掛金 ¥40,000 が相殺される。
- (5) 手形代金を受け取った場合には、受取手形勘定の貸方に記入する。
- (6) 仕入代金 ¥500,000 のうち ¥200,000 については、為替手形を引き受け、残りの ¥300,000 については約束手形を振り出しているが、これらはともに支払手形勘定の貸方に記入する。なお、手形代金の支払先は、¥200,000 は福山商店、¥300,000 は京都商店である。

[問題11-5]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	受取手形	7,000	売上	7,000
(2)	仕入	10,000	受取手形	5,000
			支払手形	5,000
(3)	支払手形	8,000	売上	8,000
(4)	受取手形	8,000	売掛金	15,000
	現金	7,000		
(5)	仕入	75,000	受取手形	45,000
			売掛金	30,000

【解説】

- (1) 為替手形を裏書譲渡された当店と為替手形にかかわる他店との関係を図示すると次のとおりとなる。



- (2) 保有している手形を裏書譲渡すれば手形債権が減少するので、受取手形勘定の貸方に記入する。
- (3) 以前に当店が振出した手形が裏書譲渡されて戻ってきた場合は、支払手形勘定の借方に記入する。
- (4) 手形を譲渡された場合には受取手形勘定の借方に記入する。
- (5) 為替手形を振出し、香川商店が引き受けたことにより、香川商店に対する売掛金 ¥30,000 が相殺される。愛媛商店から受け取り保有している約束手形を裏書譲渡することで手形債権が減少するので、受取手形勘定の貸方に記入する。

[問題11-6]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	現金	990,000	受取手形	1,000,000
	手形売却損	10,000		
(2)	当座預金	970,000	受取手形	2,500,000
	手形売却損	30,000		
	当座借越	1,500,000		

【解説】

- (1) 手形を割引いた場合には、手形の裏書譲渡ときと同様に、受取手形の貸方に記入する。また、割引料 ¥10,000 は手形売却損勘定で処理する。約束手形、為替手形などの手形の種類によって、手形割引時の処理に違いはない。
- (2) 約束手形を割引いた当店と須磨商店および取引銀行との関係を示すと次のとおりとなる。



[問題11-7]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
9/1	仕入	100,000	支払手形	60,000
			買掛金	40,000
9/20	買掛金	100,000	支払手形	100,000
9/30	支払手形	60,000	当座預金	60,000

(支払手形) 記入帳

×年	手形種類	手形番号	摘要	受取人	振出人	振出日		満期日		支払場所	手形金額	てん末			
						月	日	月	日			月	日	摘要	
9	1	約	12	仕入	兵庫商店	当店	9	1	9	30	西北銀行	60,000	9	30	支払済
	20	為	6	買掛金	広島商店	岡山商店	9	20	10	20	西北銀行	100,000			

【解説】

支払手形記入帳は、手形債務に関する内容を詳細に記録する補助記入帳としての補助簿である。具体的な記入は以下のとおりである。

- ①日付欄: 約束手形の振出日または為替手形の引受日を記入。
- ②手形種類欄: 約束手形は「約」、為替手形は「為」と記入。
- ③概要欄: 相手科目を記入。
- ④受取人欄: 手形振出時の受取人, すなわち約束手形の名宛人(兵庫商店), 為替手形の受取人(広島商店)を記入する。

⑤振出人欄：手形を作成した振出人，すなわち約束手形の場合は当店，為替手形の場合は仕入れ先などの商店名(岡山商店)を記入。

⑥その他，手形番号欄，振出日欄，満期日欄，支払場所欄，手形金額欄は，約束手形，為替手形に記載されている該当の項目をそのまま記入。

⑦てん末欄：日付欄には手形満期日，摘要欄には決済の旨を記入。

[問題11-8]

(受取手形) 記入帳

×年	手形種類	手形番号	摘要	支払人	振出人 または 裏書人	振出日		満期日		支払場所	手形金額	てん末			
						月	日	月	日			月	日	摘要	
5	1	約	61	売掛金	鳥取商店	鳥取商店	5	1	6	30	西宮銀行	50,000	5	30	割引
	15	為	28	売上	伊予商店	高松商店	5	15	7	20	本州銀行	40,000	7	20	入金
	20	約	20	売上	青森商店	青森商店	5	26	8	30	富山銀行	30,000	6	15	裏書譲渡

	借方科目	金額	貸方科目	金額
5/1	受取手形	50,000	売掛金	50,000
5/15	受取手形	40,000	売上	40,000
5/26	受取手形	30,000	売上	30,000
5/30	当座預金	49,000	受取手形	50,000
	手形売却損	1,000		
6/15	買掛金	30,000	受取手形	30,000
7/20	当座預金	40,000	受取手形	40,000

【解説】

受取手形記入帳は，受取手形の明細を詳しく記録するための補助簿である。受取手形記入帳には，手形債権が増減した時，手形の明細を記入する。

5/1 売掛金の回収として鳥取商店振出，当店宛の約束手形¥50,000を受け取った。

5/15 商品¥40,000を売上げ，代金として高松商店振出，伊予商店引受の為替手形を受け取った。

5/26 商品¥30,000を売上げ，代金として，青森商店振出の約束手形を受け取った。

5/30 5/1に受け取った約束手形¥50,000を割引き，割引料¥1,000を差し引いた手取り金を当座預金とした。

6/15 買掛金を支払うために，5/26に受け取った約束手形を裏書譲渡した。

7/20 5/15に受け取った¥40,000が満期日を迎えたので，手形代金が本州銀行を通じて当座預金に振り込まれた。

[問題11-9]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	手形貸付金	1,000,000	受取利息 当座預金	28,000 972,000
(2)	現金	1,000,000	手形貸付金	1,000,000

【解説】

「手形貸付金」は、「貸付金」でもよい。

[問題11-10]

〈山梨商店〉

	借方科目	金額	貸方科目	金額
8/15	受取手形 現金	600,000 12,000	受取手形 受取利息	600,000 12,000
11/1	当座預金	600,000	受取手形	600,000

〈長野商店〉

	借方科目	金額	貸方科目	金額
8/15	支払手形 支払利息	600,000 12,000	支払手形 現金	600,000 12,000
11/1	支払手形	600,000	当座預金	600,000

【解説】

商業手形の更改は、金融手形の更改と同様の処理を行う。

この問題は、手形の更改による新手形に利息を含めない場合の設定問である。

〈山梨商店〉

8/15 手形の更改により、利息¥12,000 を現金で受け取ったので、同額を現金勘定の借方、受取利息勘定の貸方に記入する。受取手形勘定は、新旧同額で借方、貸方に記入する。

11/1 手形代金¥600,000 を受取手形勘定の貸方に記入する。

〈長野商店〉

8/15 手形の更改により、利息¥12,000 を現金で支払ったので、同額を現金勘定の貸方、支払利息勘定の借方に記入する。支払手形勘定は、新旧同額で借方、貸方に記入する。

11/1 支払った手形代金¥600,000 を支払手形勘定の借方に記入する。



## 第12章 その他の債権債務

### [問題12-1]

		借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	当 店	貸 付 金	100,000	現 金	100,000
	大阪商店	現 金	100,000	借 入 金	100,000
(2)	売却時	現 金	60,000	備 品	160,000
		未 収 金	100,000		
(3)	買入時	備 品	200,000	未 払 金	200,000
	月 末	未 払 金	200,000	現 金	200,000
(4)	当 店	現 金	400,000	前 受 金	400,000
	奈良商店	前 払 金	400,000	当 座 預 金	400,000

### [問題12-2]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	立 替 金	10,000	現 金	10,000
(2)	給 料	150,000	従業員預り金	5,000
			立 替 金	10,000
			現 金	135,000
(3)	従業員預り金	40,000	現 金	40,000
(4)	仮 払 金	80,000	現 金	80,000
(5)	当 座 預 金	150,000	仮 受 金	150,000
(6)	旅 費	72,000	仮 払 金	80,000
	現 金	8,000		
	仮 受 金	150,000		

### [問題12-3]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	現 金	50,000	商 品 券	50,000
(2)	商 品 券	80,000	売 上	100,000
	現 金	20,000		
(3)	他店商品券	50,000	売 上	80,000
	現 金	30,000		
(4)	商 品 券	40,000	他店商品券	50,000
	現 金	10,000		

[問題12-4]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	貸付金	600,000	現金	600,000
(2)	当座預金	612,000	貸付金 受取利息	600,000 12,000
(3)	① 借入金 支払利息	100,000 4,500	当座預金	104,500
	② 現金	104,500	貸付金 受取利息	100,000 4,500

【解説】

(1) (3) 金銭の貸借により生じた債権・債務は、貸付金勘定と借入金勘定で処理する。

(2) 利息の計算は次のとおりである。

$$\text{貸付金額} \text{ ¥}600,000 \times \text{年利率} 4\% \times \text{貸付期間 (年換算)} \frac{6\text{ヵ月}}{12\text{ヵ月}} = \text{¥}12,000$$

(3) 利息の計算は次のとおりである。

$$\text{貸付金額} \text{ ¥}100,000 \times \text{年利率} 6\% \times \text{貸付期間 (年換算)} \frac{9\text{ヵ月}}{12\text{ヵ月}} = \text{¥}4,500$$

[問題12-5]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	未収金	60,000	備品	60,000
(2)	現金	60,000	未収金	60,000
(3)	備品	450,000	当座預金 未払金	50,000 400,000
(4)	未払金	400,000	当座預金	400,000

【解説】

(1) 備品の売却は主たる営業活動ではないので、売掛金勘定ではなく未収金勘定で処理する。

(2) 備品の購入は主たる営業活動ではないので、買掛金勘定ではなく未払金勘定で処理する。

[問題12-6]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	前払金	100,000	現金	100,000
(2)	仕入	250,000	前払金 当座預金 当座借越	50,000 120,000 80,000
(3)	前受金 売掛金	20,000 80,000	売上	100,000

【解説】

- (1) 手付金(内金)を支払った場合、前払金勘定で処理する。
- (2) 商品仕入時には、手付金として支払った額を前払金勘定の貸方に記入し、仕入代金と相殺する。
- (3) 注文を受けた際に受け取った手付金(内金)は前受金勘定で処理している。商品引渡時には、手付金として受け取った額を前受金勘定の借方に記入し、売上代金と前受金を相殺する。

[問題12-7]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	立替金	50,000	現金	50,000
(2)	給料	680,000	預り金	82,000
			立替金	100,000
			現金	498,000
(3)	預り金	42,000	現金	42,000
(4)	仮払金	100,000	現金	100,000
(5)	旅費	85,000	仮払金	100,000
	通信費	7,000		
	現金	8,000		
(6)	当座預金	224,000	仮受金	224,000
(7)	仮受金	224,000	売掛金	224,000

【解説】

- (1) 従業員に対する給料の前貸しは、貸付金勘定ではなく立替金勘定で処理する。なお、「従業員立替金」としてもよい。
- (2) 従業員の所得税の源泉徴収額は、預り金勘定で処理する。「従業員預り金」としてもよい。
- (5) 仮払金勘定は、内容または金額が未確定な支出を一時的に処理する勘定である。内容または金額が確定した時点で、該当する勘定に振り替える。(6)と(7)の仮受金も同様である。

[問題12-8]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	現金	200,000	商品券	200,000
(2)	商品券	50,000	売上	48,000
			現金	2,000
(3)	商品券	98,000	売上	100,000
	現金	2,000		
(4)	他店商品券	100,000	売上	100,000
(5)	商品券	400,000	他店商品券	350,000
			現金	50,000

**【解説】**

- (1) 商品券を発行したときには、後日これと引き替えに商品を引き渡す義務が生じるので、これを商品券勘定で処理する。
- (2) 商品と引き替えに当店発行の商品券を受け取った場合には、その金額を商品券勘定の借方に記入する。
- (4) 商品販売時に、提携している他店が発行した商品券を受け取った場合には、後日、他店からその商品券と引き替えに商品代金を受け取る権利が生じるので、これを他店商品券勘定で処理する。

## 第 13 章 売買目的有価証券の処理

### 【問題13-1】

- (2) 期限の到来した公社債利札  
 (3) 配当金領収書

### 【解説】

- (1) 手形(手形勘定)  
 (2) 期限の到来した公社債利札(現金勘定)  
 (3) 配当金領収書(現金勘定)  
 (4) 他店商品券(商品券勘定)

### 【問題13-2】

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	売買目的有価証券	750,000	当座預金	750,000
(2)	現金	425,000	売買目的有価証券 有価証券売却益	375,000 50,000
(3)	売買目的有価証券	506,000	当座預金	506,000
(4)	当座預金	590,000	売買目的有価証券 有価証券売却益	404,800 185,200
(5)	売買目的有価証券	4,925,000	当座預金	4,925,000
(6)	現金 有価証券売却損	963,000 22,000	売買目的有価証券	985,000

### 【解説】

- (3) 購入時の付随費用(買入手数料その他)は売買目的有価証券の取得原価に含める。  
 (4) 売却時に支払手数料は売却代金から差し引く。

① 純手取額の計算

売却代金	¥150 × 4,000 株 = ¥600,000
売却手数料	= <u>¥ 10,000</u>
純手取額	= <u>¥590,000</u>

- ② 売却した有価証券の取得原価

$$¥506,000 \times \frac{4,000 \text{株}}{5,000 \text{株}} = ¥404,800$$

- (5) 国債の取得原価は次のように計算する。

$$\text{取得原価} = ¥5,000,000 \times \frac{@ ¥98.50}{@ ¥100} = 4,925,000$$

- (6) 国債の売却代金は次のように計算する。

$$¥1,000,000 \times \frac{@ ¥96.30}{@ ¥100}$$

[問題13-3]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	現金	80,000	受取利息	80,000
(2)	当座預金	164,000	受取利息	164,000
(3)	現金	5,000	受取配当金	5,000

【解説】

国債、社債などに対する利息を受け取ったときには、受取利息勘定の貸方に記入する。株式に対する配当金を受け取ったときには、受取配当金勘定の貸方に記入する。なお、利払日を迎えた国債、社債などの利札や株式配当金受取証は、現金として処理する。

[問題13-4]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	売買目的有価証券	12,100,000	当座預金	10,000,000
			当座借越	2,100,000
(2)	当座借越	2,100,000	売買目的有価証券	8,470,000
	当座預金	7,680,000	有価証券売却益	1,310,000

【解説】

(1) 購入時の付随費用(買入れ手数料その他)は売買目的有価証券の取得原価に含める。また、阪神商事株式会社は当座預金勘定を用いて処理しているので、当座借越の処理には、当座勘定ではなく当座借越勘定を用いる。

(2) 売却時には売却手数料は売却代金から差し引く。

$$\begin{aligned}
 \text{① 純手取額の計算} \quad & \text{売却代金 } \yen140,000 \times 70 \text{ 株} = \yen9,800,000 \\
 & \text{売却手数料} \quad \quad \quad = \yen 20,000 \\
 & \text{純手取額} \quad \quad \quad = \underline{\underline{\yen9,780,000}}
 \end{aligned}$$

② 売却した有価証券の取得原価

$$\yen12,100,000 \times \frac{70 \text{ 株}}{100 \text{ 株}} = \yen8,470,000$$

[問題13-5]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	売買目的有価証券	4,000,000	当座預金	4,000,000
(2)	有価証券評価損	1,000,000	売買目的有価証券	1,000,000
(3)	売買目的有価証券	500,000	有価証券評価益	500,000

【解説】

保有している売買目的有価証券の帳簿価額と時価との差額は、有価証券評価益勘定または有価証券評価損勘定で処理する。

$$\begin{aligned}
 \text{(2) 取得原価} &= \yen4,000 \times 1,000 \text{ 株} = \yen4,000,000 \\
 \text{時 価} &= \yen3,000 \times 1,000 \text{ 株} = \underline{\underline{\yen3,000,000}} \\
 \text{評 価 損} &= \underline{\underline{\yen1,000,000}}
 \end{aligned}$$

(3) <切放法>

帳簿価額 = ¥3,000 × 1,000 株 = ¥3,000,000

時 価 = ¥3,500 × 1,000 株 = ¥3,500,000

評 価 益 = ¥ 500,000

## 第 14 章 固定資産の処理

### [問題14-1]

	貸方科目	金 額	借方科目	金 額
(1)	車両運搬具	610,000	当座預金	610,000
(2)	建 物	5,300,000	当座預金	5,000,000
			現 金	300,000
(3)	土 地	5,300,000	当座預金	5,300,000
(4)	備 品	407,000	当座預金	207,000
			未 払 金	200,000

### 【解説】

固定資産の取得原価は購入代金と付随費用の合計額であり、仲介手数料、登録料などの付随費用は取得原価に含める。

### [問題14-2]

	減価償却費	備品減価償却累計額
1年目	125,000	125,000
2年目	125,000	250,000
3年目	125,000	375,000
4年目	125,000	500,000
5年目	125,000	625,000
6年目	125,000	750,000
7年目	125,000	875,000
8年目	124,999	999,999

### 【解説】

毎年の減価償却費の計算は次のとおりである。

$$\frac{\yen1,000,000 - \text{ゼロ}}{8\text{年}} = \yen125,000$$

残存価額ゼロの場合、帳簿価額が備忘価額 1 円になるまで減価償却することとされているため、8 年目の減価償却費は¥124,999 となる。

### [問題14-3]

	貸方科目	金 額	借方科目	金 額
(1)	減価償却費	450,000	建 物	450,000
(2)	減価償却費	450,000	建物減価償却累計額	450,000



(1) 直接法

建 物		減価償却費	
4/1 当座預金	5,000,000	3/31 減価償却費	450,000
		3/31 建 物	450,000

(2) 間接法

建 物		建物減価償却累計額	
4/1 当座預金	5,000,000		
		3/31 減価償却費	450,000
減価償却費			
3/31 建物減価償却累計額	450,000		

【解説】

減価償却費の計算は次のとおりである。

$$\frac{\yen5,000,000 - \yen500,000}{10\text{年}} = \yen450,000$$

- (1) 直接法では、減価償却費を固定資産勘定の貸方に記入し、固定資産の取得原価を直接減額する。  
(2) 間接法では、減価償却費を減価償却累計額勘定の貸方に記入し、固定資産の取得原価を直接減額しない。

[問題14-4]

	貸方科目	金額	借方科目	金額
(1)	減 価 償 却 費	315,000	建 物	315,000
(2)	減 価 償 却 費	50,000	備品減価償却累計額	50,000
(3)	減 価 償 却 費	100,000	備品減価償却累計額	100,000

【解説】

(1) 減価償却費の計算は次のとおりである。

$$\frac{\yen7,000,000 - \yen700,000}{20\text{年}} = \yen315,000$$

(2) 減価償却費の計算は次のとおりである。

$$\frac{\yen300,000 - \yen0}{6\text{年}} = \yen50,000$$

(3) 期中で固定資産を購入した場合の減価償却費の金額は、固定資産の使用期間に基づき、年間の減価償却費を月割計算して求める。

$$\frac{\yen600,000 - \yen0}{5\text{年}} \times \frac{10\text{カ月}}{12\text{カ月}} = \yen100,000$$

[問題14-5]

	貸方科目	金額	借方科目	金額
(1)	現金	13,000,000	車両運搬具	20,000,000
	車両運搬具減価償却累計額	9,000,000	固定資産売却益	2,000,000
(2)	未収金	30,000	備品	1,000,000
	備品減価償却累計額	737,500		
	固定資産売却損	232,500		

(1) 「固定資産売却益」は「車両運搬具売却益」でもよい。

(2) 「固定資産売却損」は「備品売却損」でもよい。

【解説】

固定資産を売却した場合は、売却価額と帳簿価額との差額を固定資産売却益勘定の貸方または固定資産売却損勘定の借方に記入する。

(1) 売却した自動車の帳簿価額は、取得原価¥20,000,000 から減価償却累計額¥9,000,000 を控除した¥11,000,000 である。売却価額¥11,000,000 > 帳簿価額¥9,000,000 であるので、差額の¥2,000,000 を固定資産売却益勘定の貸方に記入する。

(2) 当期の減価償却費はすでの計上済みなので、売却時の減価償却累計額は¥737,500 (¥700,000 + ¥37,500) である。売却した備品の帳簿価額は、取得原価¥1,000,000 から減価償却累計額¥737,500 を控除した¥262,500 である。売却価額¥30,000 < 帳簿価額¥262,500 であるので、差額の¥232,500 を固定資産売却損勘定の借方に記入する。

[問題14-6]

	貸方科目	金額	借方科目	金額
(1)	現金	200,000	建物	1,000,000
	建物減価償却累計額	900,000	固定資産売却益	100,000
(2)	未収金	100,000	備品	400,000
	備品減価償却累計額	240,000		
	固定資産売却損	60,000		
(3)	現金	130,000	備品	200,000
	備品減価償却累計額	40,000		
	減価償却費	20,000		
	固定資産売却損	10,000		

(1) 「固定資産売却益」は「建物売却益」でもよい。

(2) 「固定資産売却損」は「備品売却損」でもよい。

(3) 「固定資産売却損」は「備品売却損」でもよい。

【解説】

固定資産を売却した場合は、売却価額と帳簿価額との差額を固定資産売却益勘定の貸方または固定資産売却損勘定の借方に記入する。

(1) 売却した建物の帳簿価額は、取得原価¥1,000,000 から減価償却累計額¥900,000 を控除した¥100,000

である。売却価額 ¥200,000 > 帳簿価額 ¥100,000 であるので、差額の ¥100,000 を固定資産売却益勘定の貸方に記入する。

- (2) 売却した備品の取得日から売却時までには 3 回決算が行われているので、3 年分の減価償却費が減価償却累計額に記録されている。この金額は次のように計算される。

$$\frac{\text{¥}400,000 - \text{ゼロ}}{5\text{年}} \times 3\text{年} = \text{¥}240,000$$

したがって、売却した備品の帳簿価額は ¥160,000 ( ¥400,000 - ¥240,000 ) である。これと売却価額 ¥100,000 との差額 ¥60,000 を固定資産売却損勘定の借方に記入する。

- (3) 期中で固定資産を売却した場合、その固定資産の帳簿価額を求めるためには、過去の決算において費用計上された減価償却費の累計額、すなわち減価償却累計額と当期の期首から売却時までの減価償却費を計算しなければならない。

本問では、売却した備品の帳簿価額を求めるために、取得時(×5年4月1日)から前期の決算日(×6年3月31日)までの減価償却累計額と×6年4月1日から売却時(×6年9月30日)までの減価償却費(5か月分)を計算しなければならない。

減価償却累計額(つまり前期末までの減価償却費)は次のように計算する。

$$\frac{\text{¥}200,000 - \text{ゼロ}}{5\text{年}} \times 1\text{年} = \text{¥}40,000$$

また、当期の減価償却費は次のように計算する。

$$\frac{\text{¥}200,000 - \text{ゼロ}}{5\text{年}} \times \frac{6\text{か月}}{12\text{か月}} = \text{¥}20,000$$

売却した備品の帳簿価額は ¥140,000 ( ¥200,000 - ¥40,000 - ¥20,000 ) となり、この金額と売却価額 ¥130,000 との差額 ¥10,000 を固定資産売却損勘定の借方に記入する。

## 第 15 章 その他(資本金と引出金・営業費・訂正仕訳・税金)の処理

### [問題15-1]

番号	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	現金	10,000,000	資本金	12,500,000
	土地	2,500,000		
(2)	現金	2,000,000	資本金	2,150,000
	備品	150,000		

### 【解説】

開業時の元入れと追加出資に関する仕訳である。追加出資の場合も元入れと同様に、資本金の増加と考えればよい。

### [問題15-2]

番号	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	引出金	95,000	現金	50,000
			仕入	45,000
(2)	資本金	250,000	引出金	250,000

### 【解説】

- (1) 店主の私用による現金の減少と商品の減少であるため、引出金勘定を用いて処理する。商品の減少は仕入勘定で処理する。また商品の減少は売価でなく原価で評価する。
- (2) 決算においては、引出金勘定の残高を資本金勘定の借方(資本金の減少)へ振り替える。

### [問題15-3]

番号	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	損益	12,500	資本金	12,500
(2)	資本金	7,900	損益	7,900

### 【解説】

- (1) 諸収益(¥80,350)－諸費用(¥67,850)＝当期純利益(¥12,500)
- (2) 諸収益(¥42,500)－諸費用(¥50,400)＝当期純損失(¥7,900)
- 当期純利益は資本金勘定の貸方へ、当期純損失は資本金勘定の借方へ振り替える。

### [問題15-4]

番号	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	広告宣伝費	140,000	当座預金	140,000
(2)	建物	600,000	当座預金	1,000,000
	修繕費	400,000		
(3)	接待交際費	37,000	現金	37,000

【解説】

費用の勘定科目名は、企業によって各種のものが用いられている。

- (1) 「広告宣伝費」は「広告費」または「宣伝費」でもよい。
- (2) 建物の修繕のうち改良にあたるものは建物勘定で処理し、修繕にあたるもののみを修繕費勘定で処理する。修繕とは現能力を維持するために行うことであり、改良とは原能力以上に向上させることである。
- (3) 「接待交際費」は、「交際費」または「接待費」でもよい。

[問題15-5]

番号	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	引出金	30,000	当座預金	30,000
(2)	租税公課	25,000	現金	25,000
(3)	租税公課	80,000	現金	100,000
	引出金	20,000		
(4)	引出金	20,000	租税公課	20,000

【解説】

- (1)(2) 「費用となる税金」と「費用とならない税金」の処理に関するものである。住民税は「費用とならない税金」であり引出金勘定で処理し、登録免許税は「費用となる税金」であり、租税公課勘定で処理する。「租税公課」は「公租公課」として処理してもよい。
- (3) 店主の個人住居部分に関する支出は、資本金の減少であり、引出金勘定で処理する。
- (4) 「租税公課」という費用を減少（誤った処理を訂正）し、その分を「引出金」という用いるべきであった勘定科目に置き換える。